

県政調査計画書

令和6年12月2日

神奈川県議会議員 柳下 剛 殿

会派名 立憲民主党・かながわクラブ神奈川県議会議員団

団長名 斉藤 たかみ

県政調査を次のとおり計画しましたので、よろしくお取り計らいください。

1 調査議員	(調査団長) 米村 和彦 (団員) てらさき 雄介 青山 圭一 赤野 たかし 市川 さとし 飯野 まさたけ 野内 みつえ
2 調査目的	児童虐待件数が増加するなかその対策は急務であることから、児童虐待等のリスクのある児童に対する支援や、県庁内保育園事業の取組を視察し、今後の本県の児童福祉施策推進の参考とする。 また、サイクルツーリズムに関する取組及び重粒子線治療の状況を調査することにより、今後の本県の施策推進の参考とする。
3 調査期間	令和7年1月28日 ～ 令和7年1月29日
4 調査地	広島県、大阪府
5 調査項目	(1) サイクルツーリズムの取組について しまなみ海道サイクリングロードは世界的に有名であり、国際サイクリング大会である「サイクリングしまなみ2024」においては、約3,500人もの参加がなされている。このサイクリングロードについて、現状や課題などを調査することにより、本県のサイクルツーリズム事業の参考とする。 (2) 子供の予防的支援構築事業について 児童虐待件数が増加する昨今において、その未然防止は急務であるところ、広島県では令和元年度から福祉や教育機関の持つ情報をもとにデータ分析し事前にリスクを把握することで、予防的な支援を行



	<p>っている。</p> <p>こうした取組を調査することにより、児童虐待防止対策の参考とする。</p> <p>(3) 県庁内保育園事業について 広島県では、自らが県庁内に民間事業者と共同で事業所内保育施設を設置しており、事業所内保育施設設置の促進を図っている。</p> <p>こうした取組を調査することにより、待機児童の解消や事業所内保育施設の推進に関する施策の参考とする。</p> <p>(4) がんの重粒子線治療の現状等について 大阪重粒子線センターは、平成30年の開設以来令和5年度までで4,198名の患者を治療してきている。このような大阪重粒子線センターの取組を調査し、本県のがん治療施策の参考とする。</p>								
<p>6 経費の概算額</p>	<table border="0"> <tr> <td>一人当たりの議員経費…</td> <td>63,478円</td> </tr> <tr> <td>① 交通費 …</td> <td>46,738円</td> </tr> <tr> <td>② 宿泊費 …</td> <td>16,500円</td> </tr> <tr> <td>③ 雑費 …</td> <td>240円</td> </tr> </table>	一人当たりの議員経費…	63,478円	① 交通費 …	46,738円	② 宿泊費 …	16,500円	③ 雑費 …	240円
一人当たりの議員経費…	63,478円								
① 交通費 …	46,738円								
② 宿泊費 …	16,500円								
③ 雑費 …	240円								

*日程表を添付する。

県政調査日程表

日	月日(曜)	調査地	現地時間	交通機関	調査箇所及び調査内容
1	1月28日 (火)		午前	新幹線等	移動(新横浜駅⇒尾道駅)
		■広島県 尾道市	午後		■尾道市役所 サイクルツーリズムの取組について
			〃	新幹線等	移動(尾道駅⇒広島駅)
2	1月29日 (水)	■広島県 広島市	午前	公共交通 機関	■広島県庁 子供の予防的支援構築事業について ■広島県庁 県庁内保育園事業について
		■大阪府 大阪市	午後	新幹線等	■大阪重粒子線センター がんの重粒子線治療の現状等について
			〃	公共交通 機関	移動(大阪駅⇒新横浜駅)

※ 現地時間は、当該都市における時間である。

県政調査計画審査結果

県政調査計画について審査したところ、結果は次のとおりでした。

調査実施議員名	(調査団長)	米村 和彦		
	(団員)	てらさき 雄介	青山 圭一	
		赤野 たかし	市川 さとし	
		飯野 まさたけ	野内 みつえ	

1 要領 2 (1) の基準への適否

区分	調査の基準	計画の内容	適否
① 調査経費	議員 1 人当たり 100 万円以内	議員 1 人当たりの経費は 63,478 円であり、基準を満たしている。	適
② 調査箇所	1 日につき午前及び午後それぞれ 1 か所以上調査実施 移動日は 1 か所以上調査実施	移動日については 1 箇所以上 それ以外の日については午前及び午後それぞれ 1 箇所以上調査を実施する行程となっている。	適

2 調査計画に対する審査所見

区分	所見
① 調査の実施が県政課題解決の一助となるか。	<p>(1) サイクルツーリズムの取組について 視察先である尾道市はしまなみ海道サイクリングロードの入口であり、しまなみ海道は平成 30 年度に推計値で 332,683 人のサイクリング客が訪れた有名なサイクリングロードである。 本県においてもサイクルツーリズムを推進しているところであるが、尾道市の取組を視察することは、県政の課題解決の一助となることが認められる。</p> <p>(2) 子供の予防的支援構築事業について 視察先である広島県では、福祉と教育機関の持つ情報をもとにデータ分析し事前にリスクを把握することで、予防的な支援を行っている。 本県においても令和 5 年度の児童相談所の虐待相談受付件数は 7,449 件と過去最多を記録しており、その対応は急務となっているところ、広島県の予防的支援の取組を視察することにより、県政の課題解決の一助となることが認められる。</p>

	<p>(3) 県庁内保育園事業について 広島県では、自らが県庁内に民間事業者と共同で事業所内保育施設を設置しており、事業所内保育施設設置の促進を図っている。 本県において待機児童数は減少しているものの、認可保育所等に対する潜在的ニーズも根強く、また、平成 25 年度の神奈川県職員提案で県庁内に託児所の整備に関する提案がなされたことから、広島県の取組を視察することにより、県政の課題解決の一助となることが認められる。</p> <p>(4) がんの重粒子線治療の現状等について がんの罹患数と死亡数は、人口の高齢化を主な要因として、ともに増加し続けているなかで、がんを殺傷する能力が強く短期間での治療を可能とする重粒子線治療はがん治療において重要な役割を果たすと考えられるが、視察先である大阪重粒子線センターは、平成 30 年の開設以来令和 5 年度までで 4,198 名の患者を治療してきている実績のある施設である。この大阪重粒子線センター取組を視察することにより、県政の課題解決の一助となることが認められる。</p>
<p>② 調査の実施時期が時宜を得たものか。</p>	<p>調査対象項目は、いずれも、本県における課題として速やかに取り組むべきものであり、今回の調査を実施することは時宜を得たものであると認められる。</p>
<p>③ 現地に赴かなければ調査目的が達成できないものか。</p>	<p>本県の独自の課題、問題点等について、関係者と直接、質疑を交わすことで、より本質的な施策の目的や解決すべき課題が理解できる。 本調査においては、現地に赴き、具体的かつ詳細に調査することは有効であると認められる。</p>
<p>④ 調査箇所、行程、経費等は妥当なものか。</p>	<p>調査箇所、行程、経費等は県政調査実施要領の基準を満たしており、妥当である。</p>